

令和2年度 吹田市第3次環境基本計画の進捗状況に係る 環境審議会評価(案)の概要

■重点戦略

1 はぐくむ

(1)進捗状況

- ア エコスクール活動簿の評価が21点以上の学校数及び環境イベント参加者数については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年通りの取組を行うことができなかったことから、減少。
- イ 「アジェンダ21すいた」と連携による協働取組の推進、能勢町との連携による木材利用推進の結果、「アジェンダ21すいた」の事業者会員数及び地域材使用量が増加。

(2)課題

今後も、持続可能な社会に貢献する人材・事業者をはぐくむために、ライフスタイル及びビジネススタイルの転換に向けた取組を市民・事業者・市民団体の連携の下、推進していく必要がある。

2 まもる

(1)進捗状況

- ア エネルギー消費削減及びごみ減量の取組を進めた結果、市域の年間エネルギー消費量及び市民1人当たりのごみ排出量については、順調に減少。
- イ 生物多様性保全イベント参加者数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となったものが多かったことから、減少。また、生物多様性の保全を重要だと思ふ市民の割合についても前回調査と比べ減少。

(2)課題

生物多様性に関する啓発活動やイベント等の実施により、生物多様性に対する関心を高めていく必要がある。

3 そなえる

(1)進捗状況

- ア 防災意識向上に向けた取組を進めた結果、連合自治会単位での自主防災組織の結成率は増加。一方、雨水排水施設の整備率については横ばい。
- イ 歩道等への透水性舗装の整備を進めた結果、透水性舗装面積については目標値を達成。

(2)課題

今後も、気候変動への適応の観点から、気候変動による大規模災害やヒートアイランド現象に「そなえる」ための取組を進めていく必要がある。

■分野別目標

1 エネルギー

(1) 進捗状況

- ア エネルギー消費量は、節エネルギー・省エネルギーを推進する様々な取組の結果、業務部門の消費量が減少。一方、家庭部門及び産業部門では横ばい。これらの結果、市域のエネルギー消費量が減少し、温室効果ガスの排出量についても減少。
- イ 節エネルギー・省エネルギー機器及び再生可能エネルギーの導入促進のため、市民・事業者への啓発・誘導が実施されるとともに、市役所の率先行動として、これらの機器の導入が行われている。

(2) 課題

- ア 市域で最もエネルギー消費量の割合が大きい家庭部門の削減を進めるためには、公共施設において、率先して再生可能エネルギー及び省エネルギー機器等の導入や更新を進め、その成果やノウハウを市民へ情報提供することで、導入促進を図る必要がある。
- イ 更なる取組の強化に向けて、昨年度に策定した「吹田市第2次地球温暖化対策新実行計画」に定めた施策を、市民・事業者と連携しながら、積極的に取り組んでいく必要がある。

2 資源循環

(1) 進捗状況

- ア 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、在宅時間が増加したことから、家庭系ごみは増加。一方で、事業系ごみについては、休業等の増加により減少。これらの結果、市民1人当たりのごみ排出量については減少。同様の理由により、燃焼ごみの年間搬入量についても減少。
- イ リサイクル率については若干増加。
- ウ マイバグの持参率については、レジ袋削減に関する協定及び国のレジ袋有料化義務化（無料配布禁止等）の結果、目標値である80%を達成。

(2) 課題

全体としては改善傾向にあるものの、目標達成に向けて、「吹田市一般廃棄物処理基本計画後期改訂版」に基づき、食品ロスの削減、雑がみ等の資源ごみの分別排出の啓発、溶融スラグの資源化促進、事業者への指導・啓発の充実、使い捨てプラスチックごみの削減等の取組を通じて、更なる市民・事業者の意識の向上及び環境に配慮した行動への誘導を図る必要がある。

3 生活環境

(1) 進捗状況

- ア 公害に関する苦情を解決した割合については、大きく改善。また、環境目標値達成率についても2つの指標で目標値である100%を達成。
- イ 環境美化の推進については、市民、事業者と連携し、環境美化の啓発等を実施。
- ウ ヒートアイランド現象の緩和・抑制に向け、SUITA MOTTANOCITY ACTION PLAN (SMAP)等の手続きを活用して対策を促進。歩道等への導入が進んだ結果、透水性舗装面積については目標値を達成。

(2) 課題

- ア 大気汚染や水質汚濁などの環境汚染に適切に対応するため、きめ細やかな規制や誘導、啓発を進める必要がある。
- イ 特に夏場における省エネルギーを推進するとともに、建築物・道路・駐車場の蓄熱抑制化など、ヒートアイランド現象の緩和・抑制に向け、地域特性に応じた具体的な施策や取組を進める必要がある。

4 みどり・自然共生

(1) 進捗状況

- ア 生物多様性保全イベント参加者数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となったものが多かったことから、減少。また、生物多様性の保全を重要だと思ふ市民の割合についても前回調査と比べ減少。
- イ 「みどりの協定」に基づく取組などを行う団体数及び公園などの面積が増加しています。一方、市民1人当たりに対する都市公園面積については、横ばい。
- ウ 自然資源の継続的な利用については、公共建築物等への地域材の利用推進に向けた取組が着実に進められている。

(2) 課題

- ア 生物多様性に関する啓発活動やイベント等の実施により、生物多様性に対する関心を高めていく必要がある。
- イ 「吹田市第2次みどりの基本計画 改訂版」に基づき、質及び量を共に重視した緑化などの取組を推進する必要がある。

5 都市環境

(1) 進捗状況

ア まちづくりのルール(地区整備計画)の策定地区数及び景観に関するルール(景観重点地区)の指定地区数が増加。

イ コミュニティバス1便当たりの乗車人数については、新型コロナウイルス感染症の拡大による外出の自粛等の影響から減少。

(2) 課題

今後も目標値達成のため、引き続き市民・事業者等への啓発や取組の支援を進めるとともに、環境に配慮した開発事業への誘導に取り組んでいく必要がある。